

13th International Design Conference (DESIGN2014) 参加報告

産総研サービス工学研究センター

渡辺 健太郎

去る 2014 年 5 月 19 日から 22 日まで、クロアチア・Dubrovnik / Cavtat にて開催された、13th International Design Conference (DESIGN2014)に参加したので、その概要について報告する。

1. 会議概要

まず、本会議の概要は下記の通りである。

・主な会議トピック：

- Design models and methods
- Complex systems
- Design for X
- Knowledge / information management
- Product-Service Systems (PSS)
- Eco-design
- User centered design / user participation
- Socio-technical issues / societal challenge
- Global product development
- Creativity in design
- Design education
- Aesthetics and perception

・ホスト：University of Zagreb

(Conference chair: Prof. Dorian Marjanovic)

・採択件数：313 件の原稿の内、214 件が採択（採択率 68%）

2. キーノート

開会のセッションにて、ミュンヘン工科大の Prof. H. Krcmar から、ソフトウェア、製品、製品-サービスシステム(PSS)、サービスエコシステムのデザインについて、Design science の観点からどのように研究されるべきか、講演が行われた。また、産業界からは 3D プリントに関する講演が行われた。また、閉会のセッションにおいて、英国の Design council が中心となった、中小企業のデザイン能力を高め、イノベーションを実現するための知識共有・ネットワークングのプラットフォームとして、European Design Innovation

Platform(EDIP)の運用が 2014 年 1 月から開始されたことが紹介された。

3. トピックス

初日（19 日）は、Design Society の各 SIG が主にホストとなり、計 8 件のワークショップが開催された。感性工学、エンジニアリングプロセス、エコデザイン、ロバスト設計、PSS、リスク管理等のテーマに基づき、参加者を交えたディスカッションやケーススタディが行われた。

講演については、前述の通り、多様なトピックが本会議で取り扱われたが、昨年開催された、同じく Design Society 主催の ICED2013 と比較すると、比較的新しい設計対象の研究（PSS、サービス、社会システム）や、社会科学的なデザイン研究の発表は比較的少なく、複雑なシステムの設計・モデリング、設計情報管理、製品ライフサイクル管理等、工学設計の主要トピックの発表がより多く見られた。また、参加者はドイツをはじめ、欧州の参加者が大半を占めていたが、日本からも筆者を含め 9 件程度の発表が行われた。



会場写真